

香川大学生プロデュース講座 ～生活排水について学ぼう！～

開催しました！



- 日時 令和4年11月19日（土）14：00～16：00
- 会場 香川大学幸町北キャンパス1号館 3階教養教育地学実験室
- 講師 香川大学生（「里海から地域の暮らしを考える」受講メンバー）

11月19日（土）に、香川大学幸町北キャンパスにて、「香川大学生プロデュース講座」を開催し7名が受講しました。本講座は里海について学んでいる香川大学の学生の皆さんが「生活排水」をテーマに講座内容を企画し、実施したものです。

はじめに、自己紹介を兼ねて受講者の特技や習い事などを当てるジェスチャークイズを行いました。初対面で緊張していた受講者も、ゲームが進むにつれて緊張がほぐれ、ゲームを楽しんでいる様子でした。学生と受講者との距離が縮まったところで2つのグループに分かれ、2つの実験を交互に体験しました。



①家からでる汚れはどのくらい海に影響する？

はじめに、家庭から出た水が再び家庭に戻るまでの水の循環についてクイズを行った後、イラストを使って、子供たちにも水の循環の過程が分かるように説明がありました。

次に、下水処理場の仕組みの説明の後、大きなごみや石、砂などを取り除く沈砂池や細かい汚れをゆっくり流して沈める最初沈殿池の働きについて学生手作りの実験装置で確認しました。実験では濁った水が沈砂池を模したペットボトルの底にたまり、最初沈殿池を模した部分にはうっすらと濁った水が残り、水が綺麗になっていく様子が観察出来ました。



②食器用洗剤などが溶けた水はどのくらい汚れている？

はじめに、学生から生活の中で水が汚れる原因としてお風呂、料理、皿洗いなどがあること、汚れた水が川へ流れることで悪臭の原因になること、油が魚に付着すると魚が生息できないというお話を受講者は聞き入っていました。

そして、魚が住める水はCOD（水の汚れの目安で、値が大きいほど汚れている）が5mg/L以下の水であると説明があり、家庭排水がどれくらい汚れているかを調べるためにCOD検査キットを用いた比較実験を行いました。実験では醤油、みりん、洗剤、牛乳を用意し、500mlの水に一滴の試料を加え、水質検査を行い、さらに500mlの水を加え、再び水質を調べました。これを繰り返し、水の汚れの変化を確かめていき、わずかに1滴の家庭排水でも魚にとって重大な問題であることを受講者たちは改めて実感している様子でした。



最後に学生より、今日の実験を通じて海を汚さない為に自分が出来ることを考えて実践して欲しいというお話がありました。受講者から、「下水処理場の役割や水の循環の仕組みが分かった」等の感想がありました。